

春がお
すすめ

No.25 風薫る

宇治茶の道

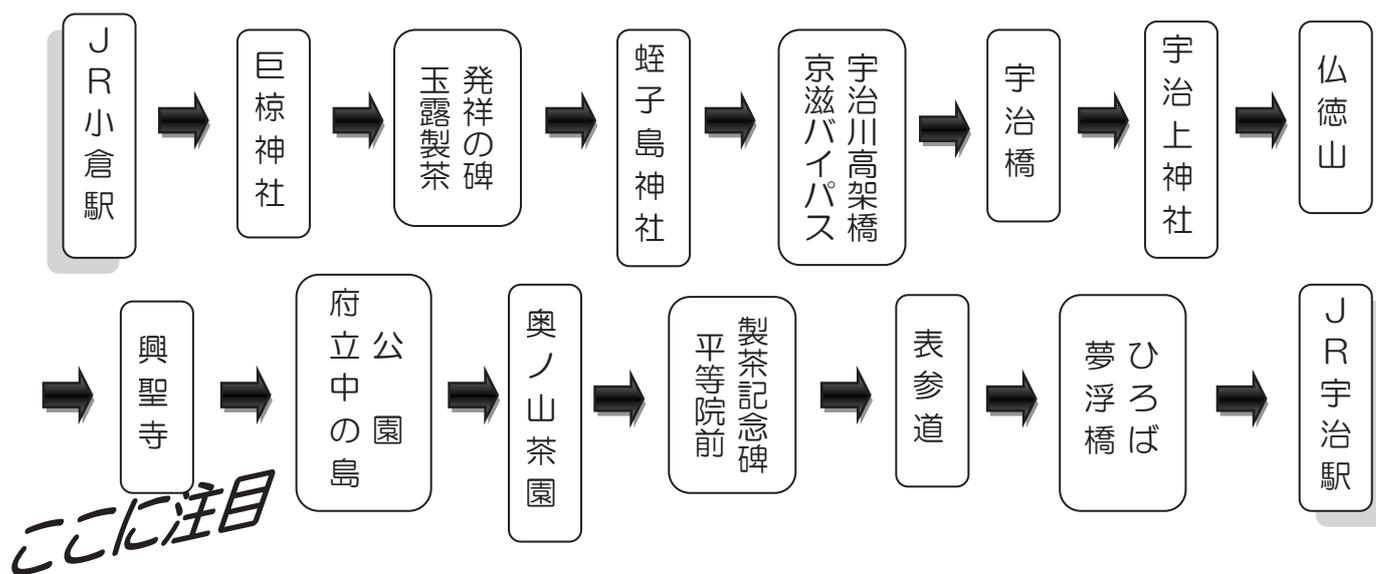
自然

歴史

宇治茶

おすすめポイント

鎌倉時代 梅尾の明恵上人によって宇治にもたらされたお茶は、室町時代には「宇治七名園」にみられるように義満の天下茶への奨励、安土桃山時代には、利休に代表される茶の湯文化、江戸時代には宇治製法の考案による庶民の茶へと、茶匠たちのたゆまぬ研鑽と努力によって、宇治茶の名声は広がっていった。このコースは伝統的な茶園をはじめ、宇治茶ゆかりの建造物や記念碑などを訪ねて歩きます。

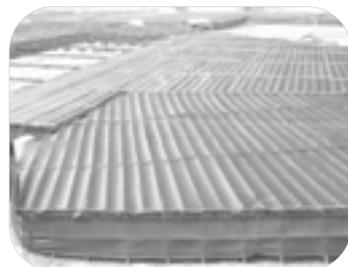


●玉露製茶発祥の碑



1835（天保6）年、宇治小倉の木下吉左衛門の製茶場において山本嘉兵衛によって試作された「玉の露」がその後、江口茂十郎によって苦心の末「玉露」として完成した経緯を記した碑。1970（昭和45）年秋、小倉茶業会によって建立、毎年10月の第1日曜日にこの碑の前で西宇治地区の茶祭りが行われる。

●宇治川右岸の覆下茶園



宇治川右岸に広がる茶畑で、碾茶、玉露など上質の茶が栽培されている。一面に張られた黒い幕は「寒冷紗」といって、太陽熱を吸収し、太陽光を遮断して柔らかい新芽を育てる。一部に簾を編み、その上に藁を広げる昔ながらの光景も見られる。

